トップメッセージ

2019年7月1日より代表取締役社長に就任いたしました渡辺剛でございます。

当社は1986年に創業し、現在に至るまで常にお客様の生産性向上と生産現場での課題解決を開発理念とし、新しく独創的な研削盤を開発することで成長してまいりました。

これもひとえに、株主の皆様やお客様、お取引先様を始めとした多くの皆様のご支援、ご愛顧の賜物であると厚くお礼申し上げます。

世界のものづくりは自動化、IoT等の活用で大きな変革期を迎えています。当社はこれまで培ってきた研削加工技術や自動化ノウハウ、IoT等により、お客様にトータルソリューションを提供するとともに、変化し続けるお客様のニーズに応えるべく最新技術の開発に邁進してまいります。そして現状に満足することなく、お客様の生産性向上を支え、お客様と共に成長出来る企業たるよう研鑽を重ねてまいります。

今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス

●株式会社太陽工機プライベートショー2019

2019年7月18日～19日の2日間、当社本社工場にて株式会社太陽工機プライベートショー2019を開催いたしました。

展示会では立形複合研削盤の次世代スタンダードモデル「CVGシリーズ」を始め、汎用性を重視したハイコストパフォーマンスマシン「Vertical Mate®シリーズ」や小型部品の加工に長年ご支持をいただいている「IGVシリーズ」、生産性とフロアスペースの効率を極限まで追求した超小型立形研削盤にスカラロボットを融合させた次世代自動化システム機「USG-2」等、合計40台以上の多彩なラインナップを出展いたしました。

今年も幅広い業種のお客様にお越しいただき、2日間での来場者数は1,000人を超えました。展示会中には多くの受注・引合をいただくとともに、今後の製品開発や事業展開につながる貴重なご意見やご要望もいただくことができ、大変実りの多い展示会となりました。

今後も当社は、お客様のニーズを捉えた製品を開発するとともに、国内のみならず海外のお客様に当社製品を提供し続けてまいります。

会社概要

（2019年6月30日現在）

●設立年月日	1986年3月14日
●資本金	7億32万8,200円
●発行可能株式総数	18,000,000株
●発行済株式の総数	5,956,400株
●本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35
●従業員	231名
●主な事業内容	工作機械（各種研削盤）の開発・製造及び販売

●ネットワーク

国内拠点	本社・工場（長岡）	海外駐在拠点	中国（上海）
	東部営業所（さいたま）		アメリカ（シカゴ）
	中部営業所（名古屋）		ヨーロッパ
	西部営業所（大阪）		タイ（アマタナコン）

●株式メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL www.taiyokoki.com （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）

ホームページのご案内

当社の詳しい情報はホームページよりご覧いただけます。

www.taiyokoki.com

TAIYO KOKI

第35期［中間期］

2019年1月1日▶2019年6月30日

Business Report

株式会社太陽工機

証券コード6164

株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社における第35期中間期（2019年1月1日から2019年6月30日まで）の事業の概況をとりまとめましたので、ここにご報告を申し上げます。ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2019年9月

代表取締役社長　**渡辺　剛**

当中間期（第2四半期）の営業概況

当第2四半期累計期間の工作機械業界は、日本工作機械工業会が発表した工作機械受注実績（2019年1月1日から2019年6月30日まで）が前年同期比で29.3%減少し、米中貿易摩擦等の影響による先行きの不透明感から国内外で設備投資に対して慎重姿勢が見られました。

こうした状況の中、当社においても半導体関連企業の需要低迷により、ピーク受注となった前年同期に比べ34.2%の減少となりましたが、国内の自動車関連企業や工作機械関連企業からの受注が堅調に推移し、当社受注の下支えとなりました。また建設機械や航空機、軸受等の幅広い業種からの需要の取り込みにも健闘いたしました。海外においては、地道な営業活動により中国や欧州、米州等の幅広い地域の現地ユーザーからの受注を獲得しております。

営業施策としては、世界4大工作機械見本市である中国国際工作機械見本市（CIMT2019）やグループ企業主催の展示会に出展し、国内外のお客様に当社製品の技術力をアピールすることでユーザー層の拡大と設備投資ニーズの掘り起こしを積極的に行い、受注の獲得につなげてまいりました。

当第2四半期累計期間の受注高は4,779,700千円（前年同期比34.2%減）となりました。

売上高につきましては、5,477,542千円（前年同期比13.5%増）となりました。損益につきましては、営業利益1,031,431千円（前年同期比27.7%増）、経常利益1,032,762千円（前年同期比28.4%増）、四半期純利益700,990千円（前年同期比29.7%増）となりました。

なお、当期は中間配当といたしまして、1株当たり25円を実施することとなりました。期末配当も1株当たり25円を予定しており、年間配当では50円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当中間期の業績

売上高	営業利益
54億77百万円	10億31百万円
経常利益	**四半期純利益**
10億32百万円	7億00百万円

品目別売上高構成比

財務諸表

（注）金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

（単位：千円）

科　　目	前期末 2018年12月31日現在	当中間期末 2019年6月30日現在
【資産の部】		
流動資産	6,007,214	6,539,394
固定資産	1,260,203	1,229,364
（有形固定資産）	(1,005,802)	(969,928)
（無形固定資産）	(46,278)	(49,055)
（投資その他の資産）	(208,122)	(210,381)
資産合計	7,267,418	7,768,759
【負債の部】		
流動負債	1,939,688	1,447,553
固定負債	274	411,400
負債合計	1,939,963	1,858,954
【純資産の部】		
株主資本	5,327,455	5,909,805
資本金	700,328	700,328
資本剰余金	517,429	517,429
利益剰余金	4,121,825	4,704,255
自己株式	△12,128	△12,207
純資産合計	5,327,455	5,909,805
負債純資産合計	7,267,418	7,768,759

（注）「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を当期から適用しており、前期末の貸借対照表の一部を組替えしています。

損益計算書

（単位：千円）

科　　目	前中間期 自 2018年1月1日 至 2018年6月30日	当中間期 自 2019年1月1日 至 2019年6月30日
売上高	4,826,189	5,477,542
売上原価	3,393,698	3,745,683
売上総利益	1,432,491	1,731,858
販売費及び一般管理費	624,980	700,426
営業利益	807,511	1,031,431
営業外収益	6,471	8,826
営業外費用	9,935	7,496
経常利益	804,047	1,032,762
税引前四半期純利益	804,047	1,032,762
法人税等合計	263,527	331,771
四半期純利益	540,519	700,990